

万作萬齋狂言

かきやまぶし
「柿山伏」

なりあがり
「成上り」
野村万作

だいほんにや
「大般若」
野村萬齋

室町時代から現代まで、
時代を越えて愛される
極上の「笑い」の芸術

撮影：政川慎治

※写真と実際の配役は異なります

撮影：三浦憲治

2020 11/11(水)、12(木) 各日2:00pm開演
A 6,000円 B 4,000円 (税込・全席指定) [1:15pm開場]

兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 阪急西宮北口駅南改札ロスグ / JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

ご予約・お問合せ 芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255

[10:00am-5:00pm 月曜休み※祝日の場合翌日]

9/12
発売

チケット
取扱

- 芸術文化センター 0798-68-0255 <http://www.gcenter-hyogo.jp>
芸術文化センター 2階総合カウンター [9/13(日)より、残席がある場合のみ]
- チケットぴあ <http://pia.jp/t/> ●ローソンチケット <http://l-tike.com>
- イープラス <http://eplus.jp>

主催：兵庫県 兵庫県立芸術文化センター

ご来場前にウェブ
サイト掲載の(当
センターをご利用
のお客様へ)を
ご確認ください



万作萬齋狂言

毎年恒例、万作萬齋狂言。芸歴80年を超えた人間国宝・野村万作を筆頭に、映像・舞台と幅広く活躍する野村萬齋ら一門による極上の狂言をお贈りします。

人間の営みの中で普遍的におこるちよつとした諷いや勘違いを、愛情とおかしみを込めた目線で演じる狂言は、忙しく過ごすうちに少しずつ固まっていた心をふつと軽くしてくれます。野村萬齋による楽しい解説付きで、初心者の方にも安心してご鑑賞いただける狂言会。深まる秋を感じる昼下がりが、あたたかな一時をお楽しみください。

解説 野村萬齋

柿山伏

山伏 石田 淡朗 (11日)
飯田 豪 (12日)
畑主 石田 幸雄

成上り

太郎冠者 野村 万作
主 高野 和憲
すっぱ 飯田 豪 (11日)
石田 淡朗 (12日)

大般若

僧 野村 萬齋
巫女 中村 修一
施主 深田 博治
笛 竹市 学
小鼓 成田 達志

あらすじ

柿山伏

修行を終え帰国途中の山伏。のどが渴いたので、道端に見つけた柿の木の実を取ろうとするが、手は届かず、石を投げても当たらない。とうとう柿の木に登って食べ始めると、ちよつと見回りに来た畑主に見つけられてしまう。腹を立てた畑主は、木陰に隠れた山伏をからかかってやろうと思いつく。あれは犬だ、猿だといわれる度に必死の物真似でごまかそうとする山伏だが、ついには空を飛ぶ鷹といわれ…。

葛桶(かずらおけ)を柿の木に見立て、おいしそうに柿を食べる様子など、見る人の想像力をかきたてる狂言の代表作です。

成上り

鞍馬寺に参籠する主人の供をした太郎冠者は、主人の太刀を預かったままとうとうと眠ってしまう。そこへすっぱ(泥棒)が現れ、太刀を青竹にすりかえ逃げてしまう。翌朝目を覚まして仰天した太郎冠者は、「成上り」の話をしごまかそうとするが、結局主人に叱られる。参詣人の中に犯人を見つけた二人は、太刀を取り返そうとごまかかかると…。

「成上り」とは低い地位からの立身出世を意味する、中世下剋上の代名詞的な言葉ですが、どこかとほけた太郎冠者の挙げる例は奇想天外なものばかり。太郎冠者と主人による大捕り物にも注目下さい。

大般若

信心深い男の家を僧と巫女が共に祈禱に訪れる。毎月の決まりで巫女は神楽を舞い、僧は読経を始めるのだが、その鈴の音がやかましくて僧はお経が読めないと訴える。しかし巫女は神楽の由来を語り、全くやめようとしな。仕方なく僧は再び読経を始めるのだから…。

神仏への信仰の厚かった中世に、僧と巫女がかち合うというのは十分あり得たお話。商売敵の神楽に、次第に引き込まれていく僧の演技が見どころです。



のむら まんぞく
野村 万作

1931年生。重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)、文化功労者。祖父・故初世野村萬齋及び父・故六世野村万蔵に師事。早稲田大学文学部卒業。万作の会主宰。軽妙洒脱かつ緻密な表現のなかに深い情感を湛える、品格ある芸は、狂言の一つの頂点を感じさせる。国内外で狂言普及に貢献。ハワイ大・ワシントン大では各員教授を務める。狂言の技術の粋が尽くされる秘曲『釣狐』に長年取り組み、その演技で芸術祭大賞を受賞したほか、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、松尾芸能賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞、旭日小綬章等、多数の受賞歴を持つ。月に憑かれたピエロ『子午線の祀り』『秋江』『法螺待』『敦』『山月記』名人伝』等、狂言師として新たな試みにもしばしば取り組み、現在に至る狂言隆盛の礎を築く。近年では、「榎山節考」の再演に取り組み、大きな成果をあげている。2019年6月、「狂言を生きたる」(朝日出版社)を刊行した。



のむら まんさい
野村 萬齋

1966年生。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言」の乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演舞台「山月記」名人伝』『国盗人』『子午線の祀り』など古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。各分野で非凡さを発揮し、狂言の認知度向上に大きく貢献。現代に生きる狂言師として、あらゆる活動を通して狂言の在り方を問うている。94年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞、優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞、千田是也賞、読売演劇大賞、最優秀作品賞等を受賞。世田谷パブリックシアター芸術監督。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開会式・閉会式のチーフ・エグゼクティブ・クリエーター・ディレクター。

《チケットご購入のお客様へお願い》新型コロナウイルス感染予防対策にご協力をお願いします。

- ※芸術文化センターでの販売は、来場者情報把握のため、先行予約会員に登録いただける方に限定させていただきます。
- ※チケットのご購入は一人様2枚までとさせていただきます。
- ※入場者数を制限して販売いたします。
- ※プレイガイドでの販売はインターネットのみとさせていただきます。取扱については各プレイガイドにお問い合わせください。
- ※37.5℃以上の発熱がある方は入場をお断りさせていただきます。
- ※マスクを着用されない方はご入場いただけません。
- ※感染の再拡大等により、公演の中止や、出演者、公演内容、座席配置等が変更となる場合がございます。

ご来場前にウェブサイト掲載の(当センターをご利用のお客様へ)をご確認ください

